

『年間を通して高品質な蓮根を、コスト低減をはかりながら安定出荷栽培をめざす』

< 機械化と氷詰め発泡出荷で輸入蓮根に対抗する >

【産地名 土浦農協蓮根本部会土浦支所（茨城県）】

産地データ（H15年）



対象品目名	れんこん
産地の名称	土浦農協蓮根本部会土浦支所
作付面積	208 ha
主要作付品種	金澄20号・味よし・湖北の光
作付農家戸数	156 戸
出荷(販売)量	2700 t/年間
販売額	933 百万円/年間
出荷(販売)先	東京シティ、新宿青果、西東京、浜松青果、静岡丸果、船一、荏原青果、宮果など

1. 産地の概要と特徴及び課題

土浦は、茨城県のほぼ中央に位置し、東は霞ヶ浦、西は筑波山につづく平坦な立地条件です。霞ヶ浦周辺は水田転作から蓮根栽培にかわり、日本一の栽培面積となっています。台地には梨や柿などの果実、グラジオラス・アルストロメリアを中心とした花き栽培が行われています。東京都心から50 Km圏内にあり、作られた青果物・花は京浜地区を中心に、北は北海道から甲信越・京阪神まで出荷されています。しかし、東京への通勤圏にも入るため、後継者不足は深刻で、畑作は減少傾向、面積を維持している蓮根についても、条件の悪いところは引き受けて栽培する生産者がなくなってきています。日本一の蓮根栽培を維持していくためにも、周年で高品質な蓮根を販売できるよう、特に夏の高温期の発泡氷詰め出荷体制と、労力の軽減を図るための機械化導入を検討していく必要があります。蓮根は、中国からも塩蔵品や生鮮品・水煮などの形態で輸入されていますが、特に6、7月の品薄時期に多く輸入されています。価格の安い輸入品をこれ以上拡大しないよう産地改革を進めていく必要があります。

対象品目の作型（生育ステージ）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地	播種					収穫						×× 最盛期
ハウス	播種		収穫									

2. 産地改革計画の概要

策定対象品目	れんこん	該当市町村名	土浦市
策定月日	平成15年1月 (変更)平成17年1月		
策定主体名	土浦農協蓮根本部会土浦支所		

(1) 計画の全体概要(要旨)

輸入蓮根に対抗し、土浦市の栽培面積を維持していくために、1つは機械化導入による労働時間の削減、生産の省力化による規模拡大と経費削減をはかり「低コスト」栽培をめざしています。具体的には、蓮根専用管理機を共同利用し、軟弱で深い水田をよく深耕し良品生産を図るとともに、レンコン掘機「ほり丸」の導入により労力軽減・生産量の拡大を図ります。これによって労働時間を約13%削減し、10a当り124時間から108時間に削減します。また、「ほり丸」の能率向上のため新機種の開発を検討していきます。農協では、れんこんセンターにおいて掘り取ったままの蓮根を洗浄・選別・箱詰め・出荷する業務を行っていますが、この利用拡大を図ることによって労力軽減をめざします。販売では、国産の安全性と蓮根のおいしさ・健康面のメリットをアピールするため、試食宣伝を実施しています。

第2に、輸入品との差別化を図るために、「高付加価値」をつけた生産・出荷をめざします。具体的には、高温期の変色を防ぐため、発泡スチロールに氷詰めして出荷します。これによって、年平均販売価格を277円/kgから282円/kgへ上げていく目標をたてています。今までは6月～8月の時期に氷詰めを実施していましたが、年々市場の要望は5月から10月へと長期化してきています。そのため、製氷能力を高めていくとともに、消費が低迷しやすい高温期の消費拡大について試食宣伝を行います。

産地改革計画3年目にあたり、鴨やバンなどによる食害が深刻になってきたため、計画変更として防鳥ネットの設置を加えました。現在食害面積はおよそ10%なので防鳥ネット設置により10a当り出荷数量を1,923kgから2,115kgへ10%増加させる目標をたて、それによる生産費の「低コスト」を244円/kgから236円/kgに下げることを目指します。

以上の取組みにより、年間通して安定的に良品の蓮根を安定価格で首都圏を始め、北海道から京阪神まで出荷することにより、安い輸入品に対抗できる産地づくりを目指します。

(2) 具体的な目標

低コスト化タイプ 生産コストを機械化による労働時間削減と規模拡大により259円/kgから244円/kgへ引き下げる。加えて防鳥ネットの設置により10%出荷数量を増加させることによりさらに236円/kgまで引き下げる。

高付加価値化タイプ 氷詰め出荷時期を約2ヶ月延ばすことで年平均販売単価を277円/kgから282円/kgへ引き上げる。

3. 産地改革計画の実行状況とその成果

平成14年度に製氷機と貯氷機を設置し、それまで6月～8月の氷詰め出荷で、出荷数量が増えてくると製氷が間に合わなくなりダンボール出荷に移行せざるをえなかったものが、5月～10月へと約2ヶ月延長できるようになりました。

構造改革後の生産・出荷・販売システム概念図

< 生産・出荷・販売システム概念図(フローチャート図) >

(注)：システムの特徴的な内容について、簡潔に説明書きする(コメントを付記する)。

産地改革に係る補助事業等の実施状況（平成14年度以降）

国庫補助事業

年度	事業名	事業主体名	事業内容	事業費	国庫補助金
	輸入急増農産物対応特別対策事業			(百万円)	(百万円)
16	野菜構造改革促進特別対策事業	JA土浦蓮根本部会土浦支部	防鳥ネットの設置	16.9 (予定)	8.4 (予定)
	生産振興総合対策事業				

関連事業（取組等）

年度	事業（取組）名	事業主体名	事業（取組）内容	事業費	うち補助金
14	「いばらきの野菜産地強化総合対策事業」 土地利用型野菜産地育成事業 10アップ省力機械型	土浦農業組合	製氷機1式 貯氷庫1式 受益面積 208ha JA土浦レンコンセンターに設置	(千円) 8,400	(千円) 2,666
15	いばらきの野菜産地強化総合対策事業 土地利用型野菜産地育成事業 10アップ省力機械型	JA土浦上大津第一蓮根部会	レンコン堀取機 1台 予冷库 1台 受益面積 4.5ha	3,720	1,240
16	いばらきの園芸産地改革支援事業 野菜産地改革支援型 契約・高付加価値推進タイプ	JA土浦上大津第一蓮根部会	予冷库 3台 受益面積 52.2ha	1,890	481

注意：ハード事業のみ抜粋した。

4. 今後の課題とその取組方向

生産者の高齢化・後継者不足は深刻な状況にあり、より一層の機械化やシステム化を検討していく必要があります。また、消費動向が家庭でつくる料理から外食・惣菜購入志向になっているなか、業務用需要に対応していくために、加工業者が対応しやすい生産・販売体制も今後の課題になってくると思われます。

「れんこんの皮むき」の検討や「サラダレンコン」・「キンピラレンコン」など加工品の袋詰め販売などを試験的に取り組んでいます。実用段階にしていくことが課題となっています。

【特記事項】

--

産地改革・取組フォト

<写真part 1> れんこん掘取作業



<写真part 2> 掘取機ほり丸使用状況

<写真part 3> 製氷機設置状況



<写真part 4> 発泡スチロール入り蓮根

<県・問い合わせ先>

茨城県県南地方総合事務所農業課

担当係名(氏名): 相沢 知規

住所: 茨城県土浦市真鍋5-17-26

TEL: 029-822-8511

<農協・問い合わせ先>

土浦農協営農部園芸振興課

担当係名(氏名): 関口 光男

住所: 茨城県土浦市田中1丁目1番地4号

TEL: 029-823-7001